

# 令和6年度 卒業年次アンケート分析結果の報告

## 1. 多くの学類・学科から寄せられた学園全体への意見

### 【バスに対する課題】

例年のアンケート結果同様、多くの学類・学科から改善を望む声が寄せられている。受験生確保のためにも、学園側に改善をお願いしたい。

(抜粋)

・通学手段、バスの利便性について限界もあるかと思うが、例年不満を感じている意見（バスの本数特に新百合ヶ丘行きのバスが少なく不便・混雑等の意見が複数あり）が多く検討すべき課題である。(看護学科)

・バス便については依然として便数が少ないこと、常に混むことへの不満が多く、特に中高の下校と被る4限終了時間帯の増便を願う声が多い。またマナーの悪さに対する大学側からの注意喚起を望む意見もみられた。(心理学類)

・バスや学食の充実度に関しては、不便な立地にもあるということで、入学生を確保するためには改善が必須である。(看護学科)

・学生生活については、引き続き、バスの本数が重要な課題である。(人間文化学類)

・スクールバスに関して、約50%は「満足していない」との回答であったので、至急改善をお願いしたい。スクールバスについては「2限開始に合わせたスクールバスが少ない。一本遅れたら30分くらい来ないため、授業開始から30分後にも間に合わない。間にもう一本バスが欲しかった」等の意見があった。新百合ヶ丘駅からのバスについても一般客からのクレームがあったが、利用している学生が多かったため小田急バスの本数を増やしてほしい等、等々の意見が出されている。健康栄養学科は、実習・実験のために、早く登校したり、遅くまで残ったりしているので、勉学に励む学生が通いやすい環境整備を大学側にしていきたい。(健康栄養学科)

### 【キャンパスショップ、食堂等に関する課題】

例年のアンケート結果同様、多くの学類・学科からキャンパスショップ、食堂の改善を望む声が寄せられている。受験生確保のためにも、学園側に改善をお願いしたい。

(抜粋)

・「KOMAJI Wi-Fi」「食堂・キャンパスショップ」等の施設環境に対しては一部で改善を求める声も見受けられ、今後の環境整備に向けて学内で共有し、議論を深めていく必要があると感じております。(観光文化学類)

・食堂のメニューの少なさ、値段が高い、コンビニの営業時間が短い、品ぞろえが悪い等、せめてバスを待つ時間を快適に過ごせるようにコンビニや学食が充実したものになると良い。(看護学科)

・学食についても価格等について見直しを求める意見があった。(人間文化学類)

・2号館の椅子が合わず長時間講義を受けるとつらい、腰痛が悪化したといった意見が複数あり、学生の健康面に配慮した(女性の特性等)安楽性や快適性を考えた学習環境の再考も必要ではないか。(看護学科)

#### 【Wifi環境について】

令和6年度からWifiの環境が整い、昨年度に比べると満足度が上がっているが、学科によってはさらなる改善が必要と感じている学生が多いことから、さらなる環境改善が必要である。

(抜粋)

・Wi-Fiの全館完備によって、授業や課題提出など利便性が上がっているが、通信速度など利便性の部分での満足度は6割程度であり、不十分な課題も残っている。(看護学科)

・Komajo WiFiの充実度と利便性については、約45%とが「満足していない」と回答している。WiFiについては、「健康栄養学科の使う16号館は繋がりが悪く、特に研究室内になると繋がらないことが多々ありました。卒論でパソコンを使う際に不便でした。もし改善されるのであれば後輩のためにはお願いしたいです。」といった意見も出されているので、健康栄養学科の研究室のWiFi環境の整備をお願いしたい。(健康栄養学科)

・一方で、Wi-Fiの導入については、利便性が高まり、学修に役立ったという意見も見られた(人間文化学類)

#### 【ICT・情報機器の活用について】

Wifiの環境整備の一環として、PCや携帯電話の充電環境等の整備が急務である。

・PCの立ち上がりが遅い、重い、教場のモニターがスムーズに映らない、ホワイトボードのマーカーインクが出ない等の不満もみられた。(心理学類)

「komajoポータルのアプリで授業の出席・欠席回数が表示されるという話があったが、一向に実装されない」という不満の声もあがった(心理学類)

#### 【その他】

・クラブ・委員会・同好会活動の再活性化について

(抜粋)

・学生生活を彩る学外活動やクラブ、同好会・委員会等の充実度が低いことが気になる。(心理学類)

・社会における経済環境が好転しない中、アルバイトのための時間が相対的に増加している様子が窺える。学修環境の様々な支援とともに、コロナ禍で一層停滞してしまったクラブ・委員会・同好会活動の活性化に向けた対応が必要と思われる。(人間文化学類)

## 2. 今後の改善結果についての要望

### 【アンケート結果に対する改善報告について】

卒業生、在学生、受験生にわかりやすく改善結果を発信いただきたい。また、全教員にも改善報告を開示していただきたい。

(抜粋)

・「自分たちに続く後輩のために」、卒業生の意見が確実にその後の駒女のキャンパスライフに活かされるようになればアンケートの意義が高まると感じる。(心理学類)

### 【アンケート実施内容、時期について】

#### 【アンケート結果に対する改善報告について】

卒業生、在学生、受験生にわかりやすく改善結果を発信いただきたい。また、全教員にも改善報告を開示していただきたい。

(抜粋)

・「自分たちに続く後輩のために」、卒業生の意見が確実にその後の駒女のキャンパスライフに活かされるようになればアンケートの意義が高まると感じる。(心理学類)

### 【アンケート実施内容、時期について】

実施内容、時期については、点検・評価・改善委員会内で検討し、それぞれの学類や学科の状況も考慮し、他の委員会で実施しているアンケートとの調整が必要である。

(抜粋)

卒業時期は学生の負担も多く、回答の質が形式的になる懸念もあるため、質問項目の簡素化や自由記述欄の位置づけ見直しなど、学生の声をよりの確に引き出す設計も検討されるべきかと考える。(観光文化学類)

・バス、コンビニ、食堂は毎年意見が上がる内容であるが、具体的な改善が困難であるのであれば、質問項目を再検討することも必要ではないか。(看護学科)

・卒業年次アンケートの質問項目がスリム化されてから、学生へ依頼するのが少し楽になった。それでもアンケートの数が多すぎることにはかわりない。卒業年次のアンケートは重要だと思うので、授業アンケートを減らすべきだと思う(全科目必須をやめるなど)。(人間文化学類)

・授業アンケートもそうだが、教員が必死になってアンケートに回答するよう促していることにやや疑問を感じる。学生が答えやすいよう質問の簡易化を進め、ポータル上で回答をしないとある程度操作できないようにするなど、実施方法の再検討が必要だと感じる。(人間文化学類)